

## オオバヤドリギの花粉と柱頭

2012年10月神奈川県小田原市でオオバヤドリギ科のオオバヤドリギ (*Scurrula yadoriki* Danser) の花を採取し、花粉を顕微鏡で観察する機会があった (Fig. 1)。葯から採取した乾燥状態の花粉は扁平で、3枚羽根の手裏剣のような、見慣れない形をしていた (Fig. 2)。他種の花粉は乾燥状態ではラグビーボール形で、吸水すると球形か楕円形になるものが多いが、この花粉は吸水状態でも楕円形にはならず、幾瀬 (日本植物の花粉 2001) の図や Fig. 3 の m の花粉のように正三角形に近づく程度である。

何故、手裏剣形なのか、花粉の付着した柱頭を見て、その理由がわかった。なんと、花粉は Fig. 3 のように、花粉の厚みより長い柱頭の乳頭突起の間にピタッとハマり込んでいた。この属の花は鳥媒花として知られている (堀田, 週刊朝日百科 植物の世界: 40号 1995)。突起の間にはまり込んだ花粉は後から訪れた鳥に触れにくくなり、柱頭から引き剥がされずにすむため、平たい手裏剣形になっていたのだろう。

また、発芽溝は3本が極で合流する3合流溝とよばれる特殊な形態を採っている。発芽時の状態は確認しなかったが、花粉が柱頭の突起の間にはまり込んだ後、

柱頭面に最も近い極から花粉管が出られるよう、3本の発芽溝が極で合流しているのだと考えられる。次の機会には発芽実験を試みることにする。

(東京都町田市成瀬 2241-1 北村 治,  
東京都小金井市本町 2-19-25-505 田中 肇)

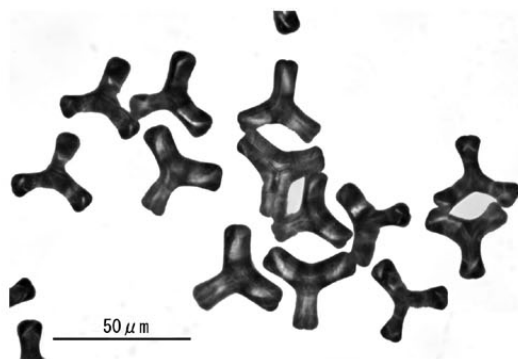


Fig. 2. "Shuriken-shaped" pollen grains of *Scurrula yadoriki*.

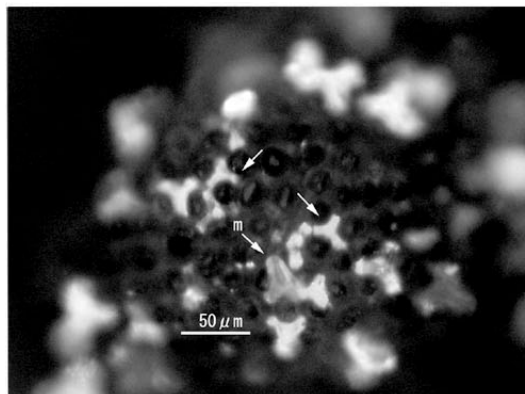


Fig. 3. Pollen grains of *Scurrula yadoriki* on stigma, tightly fitted in the space between adjacent papillae (arrows). m: moist pollen.

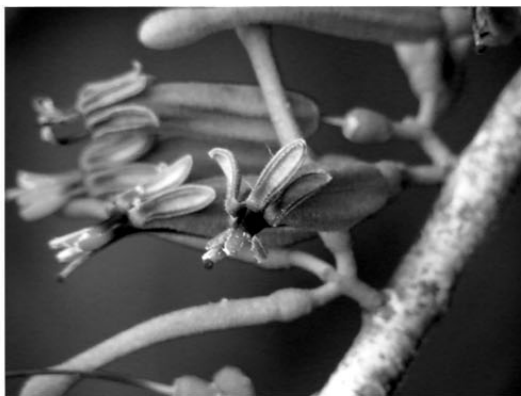


Fig. 1. Flowers of *Scurrula yadoriki*.